

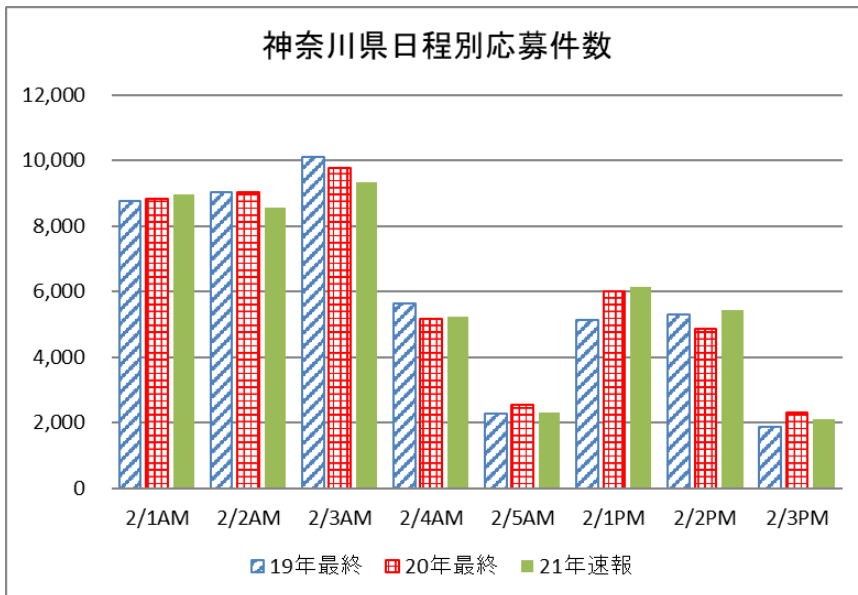
神奈川県私立中入試概況

1. 概況 中学受験はやや拡大、安全志向と早期決定志向が目立つ

神奈川県内の公立小6児童数は義務教育学校を含んで約76,000名で、昨年より約800名減っています。3月5日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計で約50,900件で、昨年最終の51,300件より約400件減っています。入試結果未公表の学校や追加募集の実施校があり、最終的にもう少し上乗せされます。実際の受験者数は約38,900名で昨年の最終より約500名増加、合格者数は約14,800名と、昨年より約400名増えています。

実際の受験者数が増えて応募総数が減ったのは、早い日程での合格者が増えたからでしょう。合格者数にはコース制の上位コース入試での入りやすいコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」合格者数はもっと多くなりますが、実際の受験者数が増加、合格者数もほぼ対応する増加ですから、レベル的にはあまり変わらなかった入試でした。

上のグラフは今年の県内中学入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したもので、今年速報値です。県内で実施される地方寮制校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。東京23区や多摩地区の資料では2月1日午前の応募者数が最多ですが、神奈川県では3日午前が最多です。昨年より約400件減っていますが、神奈川大附属が入試日程を変更して3日午前入試を取りやめた影響です。昨年までわずかの差で2日午前が2番目、1日午前が3番目でしたが、今年は1日午前がやや増えて2日午前が減ったので逆転しました。2日午前は桐蔭学園が2日午前入試を午後に移した影響が大きくなっています。1日午前はやや増加、4日午前は昨年並み、小規模な5日午前は少し減っています。なお、1日午前には応募者



だけでなく実受験者数も増加しており、都内校と合わせて考えると、中学受験は若干ですが拡大していると考えられます。

午後入試では、1日午後が4日午前より多く、少し増えています。神奈川大附属が入試を実施、グラフのように少し増えましたが、その関係で他校の中には応募者が減った学校も複数ありました。2日午後には、桐蔭学園の移動で応募者数が増加していますが、1日午後よりも増加幅が大きくなっています。昨年までも2日午後に入試を実施していた学校は、桐蔭学園の影響をあまり受けていないことがわかります。小幅ですが4日午前を上回りました。3日午後は小規模で、応募者は少し減っています。

次に難易度による志望校選択の傾向を見えます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別(上からA~Eの5段階)にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で

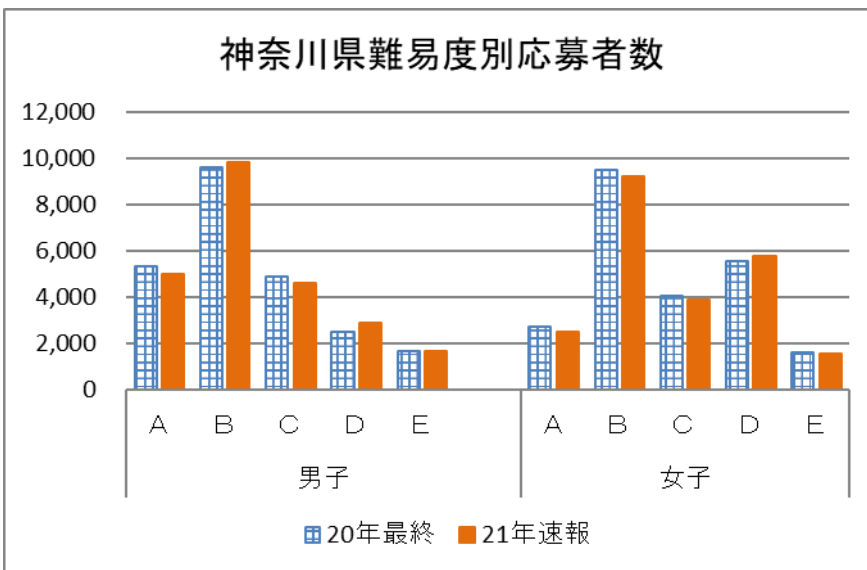
集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とは異なる場合があります。

男子は今年もBグループが最多で、昨年より少し増えています。2番目はAグループで応募者は減っていますが、安全志向でBグループに移った受験生も見られました。3番目はAグループよりわずかに少ないCグループで、このグループも応募者が少し減りました。その分Dグループが増えていて、やはりここでも安全志向の強まりが見られます。Eグループは今年も最少です。

女子もBグループが最多で、2番目がDグループ、3番目がCグループで、最難関のAグループはその次です。Bグループは300件近く減っていますが、AグループやCグループも少し減っています。Dグループは小幅ですが増えて安全志向による学校選択の増加が見られるものの、Eグループも若干減っていて、女子の応募者が多くの難度グループで少しずつ減った結果でした。神奈川県は県内だけでなく都内の学校にも多くの受験生が挑戦していますが、東京都心志向が強いこともこうした応募状況に結びついているのでしょう。

以下、地域別の入試状況です。県立相模原中等、平塚中等、横浜市立南、市立サイエンスフロンティア、川崎市立川崎は、公立一貫校の資料をご覧ください。

☆



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・鎌倉女学院・神奈川大附属・公文国際学園・サレジオ学院・湘南白百合学園・清泉女学院・逗子開成・中央大学附属横浜・日本女子大附属・日本大学(G L)・法政大学第二・森村学園・山手学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・関東学院・湘南学園・桐蔭学園・桐光学園・日本大学(NS)・日大藤沢・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院六浦・自修館・相模女子大学・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属(難関)・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・函嶺白百合学園・北鎌倉女子・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・橘学苑・鶴見大附属(進学)・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜創英・横浜隼人・横浜富士見丘学園

2. 川崎・横浜地区

<男子校>

聖光学院は、曜日の関係で帰国生入試の日程が変更になっています。2月2日の1回は、以前から後述の栄光学園との間で受験生の流出入が見られ、一昨年は栄光学園の応募者が増加、聖光学院は少し減っていましたが、昨年は逆に聖光学院が増加、今年は減っています。ただ、今年の場合は栄光学園との関係よりも全体的に安全志向が強くなったことの影響が大きくなっ

ています。実際、4日の2回は一昨年、昨年と応募者が増えていましたが、今年は減っています。1月の帰国生入試もやや減りました。合格最低点は各回次とも少しずつ下がっています。出題内容との関係はありますが、やや入りやすかったかもしれません。浅野は、一昨年は応募者が少し増えていましたが、昨年は一昨年並み、今年は微減ですが安定した人気です。合格最低点はやや上がっていますが、出題内容との関係もありますから、難度は動いていないようです。

サレジオ学院は、2月1日のA入試の応募者数が一昨年は前年並み、昨年は少し減って、今年は増加、4日のB入試は一昨年、昨年と少し減っていましたが、やはり今年は増加に転じています。実際の受験者数もA・Bとも増加しましたが、合格者数は昨年並みですから実質倍率は上昇、A・Bとも合格最低点が上がって少し難化しています。慶應普通部は人気安定していて、近年は応募者数の変化が少なく、今年もやや減ったものの、昨年とあまり変わっていません。合格最低点は公表されていませんが、今年も補欠を発表していますから、難度は昨年並みでしょう。

横浜は、併設の高校が共学化で大人気になり、男子のみの中学募集を一旦縮小することになりました。昨年は帰国生も含めて7回あった入試を3回に縮小していて、各回次合計の応募者数は大きく減っています。難度面は昨年並みです。武相も小規模な入試の学校で、今年は12月の帰国生入試と2月の2回の午後入試を取りやめました。高校入試中心にシフトしたわけです。各回次合計の応募者数は減っています。難度面はあまり変わっていません。

<女子校>

横浜市内の神奈川女子御三家から。一昨年、それまでの応募者減少傾向が反転して増加したフェリスは、昨年はやや減、今年は少し増えて隔年的な変化になってきました。合格最低点は公表されていませんが、実質倍率が上がったため、やや難化したかもしれません。横浜雙葉も応募者数は一昨年が増加、昨年は減少していましたが、今年は昨年並み、厳密には若干減りました。合格最低点はやや下がっていますが、出題内容の影響でしょう。難度面では特に変化はなさそうです。

横浜共立は2月1日のA、3日のBの2回の入試を行っています。プロテスタント校で、日曜日に重なる

と入試日程を動かします。Aは、一昨年は応募者がやや減っていて昨年は増加、今年は昨年並みです。合格最低点は少し下がっていますが出題の関係でしょう。Bは、昨年は日曜日を避けた日程移動を戻したことから応募者が大幅に減りましたが、今年は少し増えていて、合格者もやや増えました。Bはこのレベルでは珍しい2科で、合格最低点は昨年並みです。A・Bとも難度はあまり変わっていません。

神奈川学園は、各回次合計の応募者数が2018年、一昨年と減少しましたが、昨年、今年と増加が続いています。昨年は2月1日午後のA午後と2日午前のBの増加が中心でしたが、今年はA午後が昨年並み、他の回次が増加していて、志望順位が高い受験生が増加の中心です。A午前、A午後、B入試は昨年並みの合格最低点で、難度はあまり変わっていません。4日午前のC入試は上がっていて、難化しています。横浜女学院は国際教養とアカデミーの2コース制で、本稿執筆時点でまだ終了していない入試があります。2018年のコース制実施で各回次合計の応募者数が大幅に増加、一昨年、昨年とさらに増加が続きましたが、今年は減りました。人気一段落しています。実際の受験者数、合格者数も減っています。2月1日午後の特奨Iは基準点が上がって難化したようですが、他の回次は昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうです。

捜真女学校は2月1日午後を1科目入試に変更し、対話学力入試を4日午後から4日午前に動かすなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は減少、今年は増加と隔年的に変化しています。増加が目立つのは2月1日午後、2日午後、4日午後ですから、併願前提の受験生が増えています。合格最低点は概ね昨年並みですが、4日午後は少し下がっています。出題内容との関係もありますが、やや入りやすくなったかもしれません。

川崎市内では、洗足学園は曜日の関係で帰国生の入試日程を変更しています。応募者数は隔年現象が見られ、一昨年は2月1日の1回、2日の2回、5日の3回とも応募者減、昨年は増加、今年は減っています。帰国生入試は小幅の変化ですが、やはり少し減りました。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、少し実質倍率が緩和しました。合格最低点は1回が少し下がりました。帰国生入試と2・3回は

昨年並みです。1回は少し入りやすくなったかもしれませんが。他の回次も昨年並みの難度でしょう。

カトリック校のカリタス女子は帰国生入試の日程を変更したほか、オンラインでも実施しました。一昨年、昨年と、各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、今年は増加しました。どこか特定の回次が増えたのではなく、どの回次も増えていますから、人気が上がっています。合格最低点は2月1日午前の1回と2日午後の3回は昨年並みですが、1日午後の2回は少し上がり、3日午前の4回はかなり上がっています。2回はやや難化、4回は難化した厳しい入試でした。日本女子大附属は一昨年、それまでの応募者減少傾向に歯止めがかかり、各回次合計の応募者数は前年並み、昨年は大きく増加、今年は2月1日の1回、3日の3回ともやや増加しました。合格最低点は1・2回とも昨年並みで、難度面では変化が見られません。

<男女校>

まず横浜市内から。公文国際は2月1日午前のA入試で英語と数学という中学内容だけの科目選択を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年、今年と前年並みが続きました。回次や選択教科では一部増減が見られるものの、人気は安定しています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、昨年とあまり変わらない難度だったようです。山手学院は、一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は小幅ですが減っていて、今年は再び増加しました。どの日程も増えていますが、増加が目立つのは2月1日午前のAと6日午前の後期で、1日午後の特待と2日午後のBの増加は小幅です。志望順位が高い受験生が増加の中心でしょう。A、特待、Bは昨年並みの合格最低点ですが、後期は少し上がっていて、やや難化したようです。

桐蔭学園は2月2日午前の2回を午後に移しています。以前は男子の中等教育学校、男子部従来型、女子部理数、女子部普通コースの別学募集でしたが、一昨年から共学の中等教育学校に一本化されています。各回次合計の応募者数は一本化で大きく減りました。昨年もやや減ったものの、今年は増加しています。増加の中心は1日午後と2日午後の入試ですから、併願受験生が増えています。中等教育学校への一本化とともにアクティブラーニングを大幅に取り入れた授業に切

り替えていて、かつての同校のイメージとはかなり異なった内容に変化したことで新たなファン層が併願受験生に増えたのでしょう。2月1日午前の1回と3日午前の3回はやや合格最低点が下がっていますが、出題内容の影響もありますから、入りやすくなったかどうかは微妙なところです。1回午後は昨年並み、2日午後に移った2回は科目が変わりましたが、得点率は昨年並みで難度に変化はなかったようです。

中大附属横浜は、一昨年は各回次合計の応募者数が大きく増えていましたが、昨年は2月1日午前の1回、2日午後の2回の男女とも少し減りました。今年は合計では微増ですが、1回の男子がやや減って、2回の女子が増えています。合格最低点は1・2回とも上がっています。出題難度の影響もありますが、全体的な安全志向の影響で受験生の学力層がやや上がり、合格最低点が上がったのでしょう。青山学院横浜英和の各回次合計の応募者数は、一昨年まで共学化・青山学院系列化で増加が続きましたが、昨年は一昨年並みで人気が一段落、今年は減っています。各回次とも減っていますが、減少の中心は人気が高かった女子です。難化が進んでの敬遠でしょう。帰国生入試は合格最低点がかかなり上がっていますが、出題内容の関係でしょう。一般入試は2月1日午前のA、2日午後のBは昨年並みで難度に変化は見られませんが、3日午後のCは下がっていて、少し入りやすくなったようです。

神奈川大学附属は12月の帰国生入試と、2月1日に午後入試を新設、1日午後を新1回とし、3日と5日の入試は4日にまとめまで3回としました。2日の新2回は2番目の入試に位置づけが変わっています。昨年まで隔年で各回次合計の応募者数が増減していて、今年は増える順番でしたが、実際にはやや増えた程度です。しかし欠席が減って実際の受験者数は大きく増加しました。受験生の動きが変わっています。合格最低点は2回が昨年より下がっていますが、3回は昨年の5日入試より上がっています。午後入試の1回は科目が変わっていますが、昨年の2日午前よりも得点率が上がってやや難化したようです。森村学園は2月4日の3回を4科のみから2科4科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや増えて、昨年は少し減りましたが、今年は増加して隔年的な変化です。2月1日の1回は増加が僅かで、2日の2回、4日の3回は増加の中心ですから、併願受験生が増えているの

でしょう。言語技術教育では実績と定評がある学校ですが、グローバル対応も強化していますから、これらが支持されたのかもしれませんが、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

日吉の日本大学は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月1日午後の適性検査型入試を午前に移しています。グローバル対応と難関大学進学を目標とするグローバルリーダーズとNスタンダードの2コース制です。2018年、一昨年と各回次の合計の応募者数は少しずつ減っていましたが、昨年は増加、今年は減っています。2コース制にしてから人気が上がり、難化傾向が出ていましたから、人気が一段落したのでしょうか。合格最低点は2月1日午後が概ね昨年並みですが、他の回次は少し下がっています。出題内容の影響はありますが、やや入りやすくなったかもしれません。

関東学院の応募者数は各回次合計で、一昨年は増加、昨年は一昨年並み、今年は少し減っています。減少の中心は2月2日午後の1期Bと3日午前の1期Cで、他校併願受験生が少し減っているようです。合格最低点は、1期A・Bは昨年並みで難度にも変化はなさそうですが、1期Cと6日の2期は少し上がっています。やや難化したかもしれません。系列校の関東学院六浦は帰国生入試の日程が一部変更されています。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並みでしたが、昨年、今年と増えていて人気が上がっています。帰国生入試と2月3日午後の自己アピール型入試は昨年並みでしたが、他の回次は増えて実際の受験者数も増えました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度はあまり変化がなかったようです。

鶴見大附属は難関進学と進学の2コース制で、各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と少しずつ減っていますが減少が続いています。それ以前は増加が続いていました。男子は回次によっては増加していますから、女子の人気低下が中心です。一昨年も女子が減っていて、昨年は男子が減っていましたから、隔年で変化しています。横浜創英の新校舎建設と新教育プログラムで、そちらに受験生が流れているのかもしれませんが、合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者はあまり多くないため、2コースとも難度自体はあまり変化がなかったようです。

横浜隼人は2月3日午前午後の入試を2日午前午後に移しました。昨年とは逆の変更です。各回次合計の応募者数は一昨年まで安定していましたが、昨年、今年と少し減っています。他校に受験生が流れているのかもしれませんが、減少の中心は1日午後の適性検査型入試で、公立一貫校との併願受験生が他校に流れたようです。実際の受験者数や合格者数も減っていますが、各回次の難度にはあまり影響はなかったようです。横浜富士見丘学園は2月2日午後の未来力入試を取りやめました。一昨年から男子の募集を行って男女校になっています。一昨年はこの効果で各回次・男女合計で応募者が大きく増加、昨年も増加が続きましたが、今年は減っています。難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。

昨年女子校から共学化した聖ヨゼフ学園は小規模な入試の学校ですが、昨年から国際バカロレアのMYP(中等教育プログラム)を導入しています。共学や国際バカロレアが受験生に浸透してきたようで、各回次合計の応募者数は昨年に続いて増加していますが、特殊性もあって多くの受験生が集まるというよりも、「選ぶ人が選ぶ」面が強く、今年も小規模な入試です。合格最低点の動きは上下いろいろありますが、得点分布の影響が強く、総じて難度は昨年並みでしょう。

横浜創英は2月3日の入試を2日午後に前倒したほか、1日午後と2日午後に算数1科目入試を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増えていて、今年は特に大きく増えました。新校舎が完成、新校長による新しい教育プログラムの実施で、イメージが大きく変わったことが理由でしょう。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、昨年より不合格者が増えていて、一定水準で合格ラインを決めていることがわかります。少し難化したようです。系列校の横浜翠陵は2月3日午前入試を午後に移して1教科入試に変更しました。各回次合計の応募者数は昨年まで連続して減っていましたが、今年は大きく増えました。1日午前の1回は適性検査型や英語型を含めて昨年並みの応募者数で、他の回次が増加していますから、併願前提の受験生が増えているのでしょうか。グローバル化対応に力を入れていることが受験生に浸透してきたようです。合格最低点も各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていません。

橘学苑は小規模な入試の学校です。本稿執筆時点で

まだ実施していない入試もありますが、各回次合計の応募者数は、昨年が減少、今年は昨年並みです。難度面もあまり変わっていません。国立の横浜国大横浜は、一昨年は応募者が少し増えていて、昨年は減少、今年は帰国生は減ったものの一般は増加して合計では少し増えました。隔年現象が見られます。合格最低点は未公表ですが、出題内容との関係もあって、やや難化したかどうか、といったところでしょう。

次に川崎市です。法政大学第二は、帰国生の入試日程を曜日の関係で変更しただけです。各回次合計の応募者数は一昨年から増加、昨年は一昨年並み、今年は少し減りました。帰国生入試と2月4日の2回の男子は昨年並みの応募者数ですが、2日の1回は男女とも、2回は女子が減っています。少し難化が進みすぎたのかもしれませんが。合格最低点は1・2回男女とも少し上がっています。出題内容の影響がありますが、応募者が減っても少し難化したのかもしれませんが。桐光学園は男女別学校です。各回次男女合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続いていましたが、今年は減っています。昨年までの増加の中心は男子でしたが、その男子が減少の中心です。難化傾向だったため、少し敬遠されたのかもしれませんが。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年よりも若干少ない人数でした。帰国生入試の女子の一部の科目選択で合格最低点が上がっていますが、得点分布の関係でしょう。それ以外は昨年並みなので、難度に変化はなさそうです。一般入試は2月2日午前の2回の男子がやや上がったほか、1日午前の1回男女、2回女子、4日午前の3回男女とも上がっています。出題内容との関係もありますが、少し難化したのかもしれませんが。

なお、大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

3. 横須賀方面・湘南方面

<男子校>

栄光学園は聖光学院1回との間で受験生の流れが見られます。一昨年まで応募者の増加が続いていましたが、昨年、今年と前年並みの応募者数が続きました。実際の受験者数も昨年とほとんど変わらず、合格者数はやや絞っています。合格最低点は少し上がりました。出題の影響もありますから、難化したかどうか、といったところでしょう。逗子開成は、各回次合計の応募

者数が2018年以降ほぼ同じ水準が続いていて、今年も概ね昨年並みの応募者数で、人気は安定しています。実際の受験者数は2月5日の3次が増えていて、何としても同校へという受験生が増えました。合格最低点は1日の1次がやや上がっていますが、難化とはいえ幅です。3日の2次は昨年並みで、3次は上がって難化しています。

鎌倉学園は、以前は逗子開成との間で受験生の流動が珍しくなかったのですが、2月1日午前に入試を行うようになってから併願受験生の動きが少し変わってきました。各回次合計の応募者数は一昨年まで連続して増加しましたが、昨年は少し減り、今年は再び増加しました。ただ、1日午後の算数入試は減って、2日午前の2次、4日午前の3次が増えています。やはり何としても同校へ、という受験生が増えています。合格最低点は3次が上昇、難化しました。他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。藤嶺藤沢は2月1日午後を国算の2科から、4科目から2科目選択、ただし理社のみは不可に変更しました。昨年は2日午後を同様に変更しています。一昨年、昨年と、各回次合計の応募者数は前年並みで、今年も同様で人気は安定しています。1日午後は増加、2日午後は減少していますから、同校の併願受験生は入試を早めに終了するように変化してきているようです。本稿執筆時点では合格最低点がまだ公表されていませんが、難度面では昨年とあまり変わらなかったようです。

<女子校>

湘南白百合は、帰国生入試を別とすると、長い間1回入試日が続けてきましたが、昨年算数1教科入試を新設して複数回化に踏み切り、応募者が大きく増えて難化しました。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。昨年の人気落ち着いたようで、各回次とも応募者は減っています。合格最低点は2月1日午後の1教科入試と2日午前の4教科入試とも少し下がって、やや入りやすかったようですが、4教科入試と同時実施の英検利用入試は昨年並みでした。

鎌倉女学院もフェリスをはじめとする神奈川女子御三家の併願校です。2月2日の1次の応募者数は一昨年からやや減、昨年は減少、今年は昨年並み、4日の2次は一昨年から前年並み、昨年、今年と減っています。同校の入試日程は神奈川女子御三家各校が宗教上の理

由で年によって日曜日を避けて日程を移動しても、必ず重ならないように日程を移動するのが恒例で、一昨年から昨年は2次の日程が動きましたが、昨年から今年には日程変更がありません。合格最低点は1次・2次とも上がっています。出題内容との関係がありますが、上昇が大きい2次はやや難化したようで、応募者の減少は受験生が絞られたからでしょう。

清泉女学院は2月2日午後算数1科目のSP入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、以前は隔年で現象で増減していましたが、3年連続で増加、今年には新設のSP入試を除いても応募者が増えていて、人気が上がっています。合格者数は昨年よりやや増えたものの、応募者数や受験者数の増加よりもずっと少ないので、厳しい入試になりました。合格最低点は上下いろいろですが、2月1日午前、午後は少し上がって難化しています。3日午後は逆に下がっていますが、こちらも出題内容との関係ですから、入りやすくなったとは言いきれない状況です。聖園女学院は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午後の入試を午前に、5日午前入試は4日午前に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年が前年並みで、昨年は減っていましたが、今年には増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えました。合格最低点は多少上下が見られるものの、概ね昨年並みで、難度は昨年並みでしょう。

鎌倉女子大は国際教養とプログラムの2コース制です。以前は特進・進学の2コース制でしたが、一旦特進レベルに統一した募集とし、そのうえで昨年からの現在のコース制になっています。今年は書類選考型入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は昨年大幅に増加して小規模な入試を脱し、今年もさらに増えていて、受験生への新コース制の浸透が進んできました。合格最低点は公表されていませんが、両コースとも昨年並みの難度だったようです。北鎌倉女子は小規模な入試の学校です。今年2月1日午後の算数1教科入試を2日午後に移したり、エッセイ入試を新設、エッセイ入試と英語プレゼン入試はオンラインでも実施しました。地域でのイメージ改善で、各回次合計の応募者数は昨年に続いて増えていますが、今年も小規模な入試でした。

聖和学院も小規模な入試の学校ですが、教科の入試だけでなくスピーチやプレゼンテーション型など、多

彩な入試を実施しています。今年一部は一部の日程で科目の追加・変更がありました。各回次合計の応募者数は少し減っていて、合格最低点は科目選択によって上下が見られるものもありますが、得点分布の関係でしょう。全体的な難度は昨年並みです。緑ヶ丘女子は帰国生入試を新設しましたが、今年も小規模な入試でした。

<男女校>

慶應湘南藤沢は横浜初等部からの内部進学者が入学するようになったため、一昨年から募集定員が削減されています。一昨年は定員削減で敬遠されて応募者が減りましたが、昨年は帰国生入試の男子がやや減ったものの女子は一昨年並み、一般入試は男女とも増加していました。今年には帰国生男子が増加、女子が減少、一般入試は男子が減少、女子は昨年並みです。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜で、もともと高難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。日大藤沢は今回から併設小学校からの内部進学者が出るため、募集定員を大きく削減しました。2月1・4日の2回入試設定は変わりません。募集定員が削減されたことから、2回入試は男女とも応募者が減りました。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、実際の受験者数の減少に比例して合格者も減っていることから、難度面はあまり変わっていないかもしれません。

湘南学園は2月1日午前E・SD入試を午後、午後のA入試を午前に移して2科から2科4科選択とし、2日午前のB入試は4科から2科4科選択に、3日午前のC入試は4科から2科に変更しました。全体的に受験のハードルを下げる変更です。一昨年は各回次合計の応募者が増えていましたが、昨年は減少、今年も少し減りました。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は大きく絞っています。今回の変更で志望順位が高い受験生が増えると考えたのかもしれませんが。合格最低点は科目変更もあって単純比較ができないものもありますが、A・B入試は少し上がっています。出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。C・D入試は昨年並みの難度だったようです。横須賀学院は、各回次合計の応募者数が一昨年がやや増加、昨年はまとまって増えて、今年もやや増加と、派手さはありませんが、着実に応募者を増やしています。ただ、増加の中心は2月1日午後と2日午後

で、1日午前は適性検査型が昨年と同数だったものの2科4科は減っていて、併願受験生の人気を中心になってきました。合格最低点の一部上下が見られるものもありますが、各回次とも概ね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

アレセア湘南は小規模な入試の学校です。2月3日午前・午後の入試を2日午前・後に動かしました。昨年とは逆の動きです。一昨年は小幅ながら各回次合計の応募者数は増えていましたが、昨年は微減、今年は減りました。ただ、もともと小規模ですから難度面はあまり変わっていません。国立の横浜国大鎌倉は2月7・8日に日程を移動しました。昨年までの2月2・3日の2日間入試では、他校との併願が制限されることから、応募者数は細かな増加を除くと少しずつ減る傾向が出ていましたが、日程変更の効果で大きく増えています。合格最低点は公表されていませんが、やや難化したかもしれません。

4. 県央～県西方面

<女子校>

聖セシリアは帰国生入試の日程を変更しました。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は一昨年並み、今年は増加と推移して人気が上がっています。増加の中心は2月1日午前と2日午後の4科受験生です。合格最低点は昨年並みで、難度には変化がなかったようです。相模女子大は曜日の関係で帰国生入試の日程を移しています。一昨年まで各回次合計の応募者数は減少が続きましたが、昨年、今年と前年並みが続いて、人気の低下に歯止めがかかりました。実際の受験者数も昨年並み、合格者数はやや増えています。難度面はほとんど変わっていないようです。

地域は離れますが函嶺白百合は、2月2日の入試をI科目に、代わって自己PR入試を3日に動かしました。各回次合計の応募者数は昨年並みで、今年も小規模な入試でした。難度にも変化は見られません。

<男女校>

東海大相模は、各回次合計の応募者数が、一昨年は前年並み、昨年は増加しましたが、今年は減っています。昨年増加した反動でしょう。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は緩和しました。合格最低点は公表されていませんが、少し入りやすくなったようです。自修館は2018年、一昨年と各回次合計の応募者が減っていましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。どの日程も増えていますから、第一志望、併願前提の両方の受験生が増えています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、応募者や受験者の増加に比べて合格者の増加は少なく、厳しい入試になっています。各回次とも少し難化したようです。

地域は離れますが、相洋は一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、今年はまとまって増えています。人気が上がっていることは確かですが、むしろ小田原周辺で中学受験生が増えたためでしょう。2月2日午前は4科の合格最低点が上がっていますが、得点分布の関係でしょう。1日午前午後、2日午前午後の難度はあまり変わっていないと思われれます。しかし、4日は2科4科とも上昇していて、日程を考えると4日は難化したようです。

MEMO